

[第660回 大阪放送番組審議会議事録]

1. 開催日時 令和5年8月30日(水) 午後2時00分～3時00分

2. 開催場所 大阪放送 大会議室

3. 委員の出欠 委員の総数 6名

出席の総数 6名

出席委員の氏名 成瀬 國晴 たつみ 都志
鎌田 雅子 上林 寛和
徳永 潔
河内 厚郎(書面参加)

放送事業者側出席者の氏名

吉野 達也 赤松 加枝子
石津 英計

4. 議題

1) 番組審議 『大阪を前へ!』 『兵庫を前へ!』

2) その他

5. 議事の概要

『大阪を前へ!』 『兵庫を前へ!』について、番組の企画意図と内容を説明し、意見を聞いた。

社 側 「大阪を前へ！」「兵庫を前へ！」は、特定の政党関係者がゲスト出演した番組です。様々な地域の議員や秘書の方などが、自分の地域の好きなところや、議員になったきっかけ、自身の地域での取り組みなどを話すといった内容です。全番組放送後、聴取者の方から問題があるのではないかとご意見が寄せられました。番組審議会からもご意見を賜りたく、ご審議いただきたくお願いを申し上げます。

<各委員のご意見>

委 員 終始ゲストの方の生い立ちや活動内容の話なので政党のPR番組だと感じた。

委 員 ラジオ大阪の中でこの番組を受けるかどうか、もっと真摯な議論が必要だった。この番組については議員の仕事内容や実績をアピールしていて、「偏った政党」の応援でしかないと感じた。聴取者の役に立っていないと思う。

内容も毎回フォーマットが決まっており、貧乏・病気といった苦勞話で同情を引く内容が共通する。

委 員 インタビュアーが終始政党を絶賛しており、その発言に対して嫌悪感を覚えた。番組のスタッフで同じように嫌悪感を抱く人はいなかったのか。また、番組関係者以外に内容をチェックする人間はなかったのか。

インタビュアーが受け取り方にとっては野党に対する批判と取れるものや、「良いことは中々報道されない。私たちが訴えていけないといけない」と仰っており、多くのリスナーは“私たち”はラジオ大阪の事を指していると思うだろう。陰謀論やフェイクが横行する中で既存のメディアは正しい情報を発信する社会的責任と信頼が重要になっている。社内のチェック機能が働いていればこのような事は起こらなかったのではないか。組織全体で考えるべき深刻な問題であると思う。

委 員 議員の活動実績を持ち上げるものばかりだった。聴取者はラジオ大阪がジャーナリズムとして、この内容を放送していると判断する恐れがある。議員にエールを送る人が「本当に素晴らしい」とか「思いやりがある」とか言うのは分かるとしても、司会者まで紋切型の褒め言葉に終始するのはどんなものか。

委 員 聞き始めは、政党べつりの宣伝と正直閉口したが、聞いているうちに、そこそこ面白い番組だと感じた。

全員が「わが町はよい町」と言っているが、もちろん問題は多かれ少なかれあって、「行きたい町」「住みたい町」にするための議論も活発化してほしい。

委員 まとめて聴く事によって見えてくるものがあると思う。フォーマットとして、同じ流れ・同じ時間配分で番組内容が進んでいる。それぞれ単回で聴くと意外と分からないが、続けて聞くと特定政党の宣伝だな、という感じが強調されるように思う。経緯として、いわゆる完パケ番組である事が要因にあると思う。搬入されてから放送されるまでにどういったチェック体制があるのか。チェックシステムがしっかりしていれば、このようなことは起こらなかったのではないかと思う。

社側 委員の皆さんからご指摘頂いた内容を真摯に受け止め、チェック体制など改善できるよう、社内で議論を進めていく。
貴重なご意見、ありがとうございました。

以上